

「 助け合い、支え合いの力 」

広島県 呉市立天応学園 7年 ^{たに}谷 ^{ゆうな}侑奈

今から六年前、私が一年生の時、一生忘れることが出来無い経験をしました。

その日は大雨が続いていて、警報が出ていたので学校は休校になり、一日中家にいました。夕食を食べ終わった頃、家の前のグレーチングから水が吹き出しているのを母が発見し危ないかもしれないと思い、隣の家に住む祖母を呼びました。父も祖父も大雨のため、家に帰宅できず、三人で「もしもの時は二階へ避難しようね。」と身をよせ合っていました。掃き出しの窓から外を見ると、先程のグレーチングから水が流れ出て、庭が川になっていて、窓の下の高さまで水がきていました。当時一年生だった私にも、「これはただ事では無いな。このまま家が埋まってしまうのかな？」という恐怖と心配の思いで心が一杯でした。すると、床下収納の扉が動き出して、隙間から水があふれ出してきました。その時には、掃き出しの窓の下よりも水位が上がっていました。母が、「これはもう、二階へ避難しないと。」と言い、私と祖母は二階へ避難し、母はランドセルなどの目につく大切なものを二階へ運んでいました。二階の窓から外を見ると、家の前は川になり、ここは本当にいつも暮らしている天応だとは思うことが出来ませんでした。隣の祖母の家は、すでに窓が割れていて、水や土砂が家の中に入ってきて、グルグルと回っているのが見えて、私は、祖母を私の家に呼んで本当に良かったと思うのと同時に、祖母が逃げ遅れていたなら、どうなっていたのかという恐怖が頭をよぎりました。私の家は建てて一年しか経っていなかったもので、その時は窓は割れていなかったけど、床下から水がどんどん入ってきました。二階から階段を見ると、一段ずつ水が上がってきて、私のおもちゃがプカプカと浮いていて、すごく悲しくて、沢山泣いたのを鮮明に覚えています。気が付くと私は寝ていたけど、母と祖母は、寝ることが出来無かったと言っています。

夜が明けると、昨日まで暗くて見ることの出来無かった遠くの景色も見えて、私の知っている天応では無く、本当にここは天応なのかと信じられませんでした。水の流れが速すぎて、中々救助に来てもらえず、二階でずっと救助に来てもらうのを待っていました。ずっとヘリコプターが飛んでいて、赤いタオルなどで「ここにいるよ。」とアピールしていました。川の流れが少し落ち着いたタイミングで、消防士さんが窓から入って助けにきてくれて、濁流の中、一人ずつおぶってもらい、安全な所へ避難しました。私は一番に助けてもらい、私が岸に着いたのを見て、母は「ほっとした。」と言っていたそうです。

それから、父の会社の近くで天応とは離れたアパートに避難して、避難生活を送っていました。私は、「もう天応に戻るのはいやだ。」と心の底から思っていました。

父と母は家の土砂のかき出しに行くため、朝の四時に家を出て、何時間もかけて天応へ行ったそうです。ボランティアの方や友達のお母さんにも助けてもらい、十ヶ月後に家に帰ることができました。私は、天応のために頑張ってくれている沢山の方々の姿を見て、やっぱり大好きな天応に戻りたいと思っていたので、「また天応で暮らせる」と大喜びしたのを覚えています。

この辛い経験を受けて、今までの生活は当たり前では無かったと分かりました。沢山の方に支えてもらい、助けてもらったから、今の生活があると思います。だから私も誰かのことを支えたり、助けてあげたりできる様になりたいです。

土砂災害を無くすことは出来無いけど、被害を少なくすることは出来ると思います。私はこれから、もしもの時に命を守れるよう、日頃から避難の計画を立てるのはもちろん、私が助けてもらったように、誰かが困っていたり、大変な思いをしていたら、そっと寄り添ってあげて、助けたり、支えてあげられるようになりたいです。